



Title	国際舞台の裏方で
Author(s)	奥野, 雅生
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/81434
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

国際舞台の裏方で

奥野雅生

序

林田先生から退官記念誌になにか寄稿してみませんか？とお声をかけていただいた。多文化共生社会、言語バリアフリーに取り組まれてきた大学教授と、地方公務員が海外駐在を経験し、英語ができる（はず）の便利屋としてその後の大阪府が関わる国際イベントなどの裏方で貧弱な英語力で四苦八苦してきた私とは、近くて遠い交わることのない道を別々に歩いてきたようでした。先生にご縁をいただいたのは私の定年退職近く。好き放題に人生を振り返ってしまうと先生にお世話になった思い出に辿りつくまでに迷子になってしまうので、人生中盤は思い切ってカットし、SIBOS で先生に助けていただいた思い出を中心に書かせていただこうとおもいます。……といいながら、人生中盤のさわりも少しだけ。

昭和から平成と時代が移り、全国の自治体が競って海外事務所を設置していたバブル経済末期、一家五人で3カ年のNY生活。その後は2〜3年毎に、それまでとは全くの別世界を転々(下記参照)。我家は、母子家庭状態に逆戻りし、過労死寸前だったことも、逃げ出したいこともありましたが、助けていただいた皆さんのことなど、いまではもう懐かしく、裏方でも、やり甲斐ある仕事ばかりだったのは本当に幸運だったと思っています。

- 大阪センチュリー交響楽団(現 日本センチュリー交響楽団)事務局楽団管理課長(1994)
関西空港開港記念アメリカ公演、外国人5人(指揮者と団員4人)との契約交渉 等々
- 高度情報化推進協議会調査役
宮原秀夫大阪大学教授(のちに総長)門下の研修者が中心となった情報通信技術研究～気候変動枠組条約締約国会議(COP3 京都会議, COP3 ブエノスアイレス会議)の全世界へのインターネット配信実証実験——演説者の顔がやっと識別できほどの画面でしたが——の国連との契約締結などのお手伝いなど
- 教育委員会障害教育課総括補佐

障害のあるこども達の教育環境の改善，海外の教育事情収集など

- 財団法人大阪 21 世紀協会文化課長

「舞台芸術・芸能見本市大阪(PAMO)」に海外専門家を招き，国際シンポジウム「舞台芸術の魅力～異文化との出会いと感動」，国際セミナー「各国の舞台芸術・芸能をめぐる国際交流事情」などを開催

- 商工部経営支援課参事（経営革新・デザイン振興担当）

1. 先生とのご縁

2006 年，15 年ぶりに古巣の職場に課長として戻り，「在日外国人のため医療問題を考える勉強会」に先生のご協力をいただいたのが初めての出会いでした。

外国人の診療に必要な通訳を確保している医療現場は少なく，地域のボランティア通訳に頼っているところもあり，適切な治療が受けられないことが問題となり，若手職員が自主的に勉強会を立ち上げ，大阪府の留学生支援事業などにご尽力いただいていた先生に，厚かましくもボランティアでご協力を仰いだと記憶しています。

民間病院，地域ボランティア団体などからもお話をおうかがいし，

- 多言語で対応できる医療機関は少ない
- 通訳が誤訳すれば命に関わり，その責任は重い
- 地域のボランティア通訳といっても，その語学力，医療の知識などは様々
- その能力を適正に把握できれば，医療現場で協力してもらえること，もらいたいことは多い
- 通訳能力の適正な把握とあわせて，段階に応じた通訳育成が緊急の課題

など，先生のリードで要点が整理されていきました。

淡々とした口調，あたたかい笑顔の中にも，言語の壁を乗り越えて多文化共生社会を実現しなければ！との先生の熱い思いが伝わってきたと，記憶がだんだん蘇ってきたのですが，

ならば、先生が若手職員の問題意識に火を着け、あの勉強会ができたというのが本当のところだったのかもしれない。

大阪府議会が医療通訳問題を議題としてとりあげるところとなったので、勉強会が生きてくると思ったのですが、上司から、医療部局を差し置いて出しゃばってはならぬ！と叱られ、そればかりが原因ではなかったとは思いますが、あえなく課長交代。

2007 年春、大阪観光コンベンション協会 OCTB（現 大阪観光局）で、集客誘致担当部長の肩書きをもらい、中国からの修学旅行団の誘致、北京プレ・オリンピック・イベントへの大阪府立淀川工科高校ブラスバンド派遣などに携わり、成長し続ける中国を肌で感じる事ができたのは、とても新鮮な経験でした。・・・が、また 1 年で OCTB コンベンション部長となりました。

同じ 2007 年、林田先生は、大阪外国語大学と大阪大学の統合で、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(CSCD)の教授に、多様な学術研究を横断的に結び、大学と地域が連携して社会貢献をめざすのがその使命。先生がとりくまれてきたこととピッタリ……

私は、NY 駐在中にお世話になった LA 関西クラブ（関西県人会）の夏期短期学生招聘事業のお手伝い～公募、小論文・面接による選考、事前研修、帰国報告会～に先生も巻き込んで応募学生の発掘を毎年お願いするようになっていきました。

先生からは、「医療現場における外国語指差し会話ブック(仮称)」の作成に、OCTB 職員——中国語とハングルをともに母語とし、日本語弁論大会で優勝する経歴をもつ元看護師——の協力が欲しいと私にご相談があり、先生の熱意を意気を感じて快く、時間外にボランティアで引受けたいとの OK もあり、OCTB 会長の正式承認をもらったお手伝いをさせていただいたことがありました。

2. SIBOS って何？

OCTB コンベンション部は、大手旅行代理店や、関西の有力企業などから派遣されたベテラン、語学に堪能な OCTB 職員、人材派遣会社からの臨時職員などの皆さんで構成されていましたが、私の仕事は、部の人事・予算管理に加えて、誘致目標、達成状況などをもとに他都市との勝敗、その原因と評価を大阪府・大阪市に説明し、予算を確保してくること。数字相手のデスクワークはあまり楽しいものではありませんでした。

そんなときに、メガバンクから、2012 年の SWIFT 主催の SIBOS(サイボス)を大阪に誘致してもらいたいとのご相談をいただいた。SWIFT（スイフト）の名前に聴き覚えはありましたが、SIBOS は知りませんでした。

SWIFT（Society for Worldwide Inter bank Financial Telecommunication、本部：ベルギー）の年次総会・セミナー・展示会・商談会が SIBOS（SWIFT International Banking Operation Seminar）。ヨーロッパ、北米、アジア太平洋の順に開催地を変えながら規模を年々拡大し、経済効果 100 億円との報告もあり、世界が誘致を競っている世界最大規模の民間国際イベント。英語が公用語でない日本での開催はないとされてきたが、日本のメガバンク 3 行が協力して SWIFT を動かし、首都圏への視察が実現したが、眼鏡に叶ったのは東京ビッグ・サイトだけ。ところが、毎年のイベント主催者を差し置いて 1 回限りのイベントに、4 年後といえども、秋のピーク時に 2 週間以上も全館貸し切りは無理と断られたとのこと。あきらめきれず、インテックス大阪がある大阪も視察してほしいと SWIFT に再度提案したので協力してほしいとのご相談でした。

驚くばかりの厳しい開催条件を大阪がクリアできるはずもないが、100 点満点の都市などないはずと思うと、チャンスは逃せない。チームが結束し、欧米人あこがれの京都、奈良も近い、魅力あふれる観光都市、国際都市だと大阪をアピールした提案書づくりに取り組んだ。インテックス大阪からも、4 年後ならスケジュールを調整できるかもしれないと協力もいただくことができ、OCTB 津田会長名の提案書、橋下大阪府知事・平松大阪市長の連名招請状を SWIFT 本部に郵送し、そのデータを SIBOS 責任者（Head of SIBOS）Panos Tzivaniadis さん（2020 年 2 月現在 国際オリンピック委員会 IOC の Director, Corporate

Events & Services) に、視察経費は全額 OCTB が負担すると書き添え、私から E メールで送信した。Panos さんから、旅費はいらない、香港出張の帰りに大阪を視察すると返信が届いたときの嬉しかったこと！

超多忙な知事・市長のスケジュールをなんとか調整してもらい、Panos さんに、「私にできることなら、なんでも言って下さい」と、お二人からリップサービスいただき、インテックス大阪視察では、2008 年オリンピック誘致で失敗した轍を踏むまいと、どんな質問・要求にも、「その場で NO とは言わない。検討します。」と応えてもらったことも効を奏し、大阪誘致が実現。2012 年秋の本番終了までの 4 年間は私の人生で一番長い 4 年間となりました。

東京視察では、地元関係者を一つにとりまとめて窓口となってくれそうなところがみえず不安だったが、大阪は、OCTB が窓口で動いてくれそうだから OK したと、Panos さんから聴いたと、後日、SWIFT 日本の入江副代表から教えていただいた。毎年の本番準備と並行して 4 年先まで 4 都市での準備作業を、英国を中心とした専門企業チームに指示して進めていくためには、英語が通じることが絶対条件。とはいえ、中国・韓国も台頭し、日本の希望を無視してもいられない SWIFT の事情もあったようだ。東京ではなく、大阪で OK となったのは、幸運だったというほかない。

言葉の壁の問題は、最後までほとんど表面に出てこなかったのは、ご協力いただいた多くの皆さんの力があつたからですが、最後まで心配だったのは医療体制。英語圏なら、参加者の健康管理を SWIFT が心配しなくてもよいが、日本では……というわけである。

大阪大学や大阪府立病院などに会場への医師派遣をお願いし、実現しそうとなったときに、英国の救命救急士を連れてきたいとの SWIFT からの提案などもあり、結論まで二転三転。最後はインテックス大阪の救護室に英語が堪能な看護師に常駐してもらい、SWIFT 指定ホテルがそれぞれ緊急体制を確保するという事で収まったのですが、本当に適切な治療が受けられるだろうかという心配が消えることはありませんでした。

そんな中、林田先生からご提案いただいたのは、大阪大学と株式会社ミウラの共同研究で開発中の「多言語問診票システム」でした。

訪日客が日本滞在中に病気になったときに備えて、持病、常用薬などの情報を事前に入力しておき、病気になったときには、その症状などを医師の診察までに母国語で入力して翻訳しておくことができればより適切な治療が期待できるというものでした。

3. 部分最適は全体最適を損なう！

さっそく OCTB のホームページから参加登録者がそのシステムをダウンロードできるようにしてもらおうと、民間企業から出向されていた HP 担当者をお願いしたのですが、「命にかかわることに責任は持てない。協力はできない」と、頑に反対され、システムの開発責任者との打ち合わせ会議を前に立ち往生。最後は林田先生にお越しいただき、「反対は自分本位な部分最適であり、公共の全体最適が損なわれる行為」との林田先生からの強烈な一喝で一件落着。あんなに怖い顔をされた先生はそのとき限りでした。

終ってみると、インテックス大阪救護室に SOS があったのは、虫刺され程度のことばかり。めでたしめでたしではありましたが、多言語受診システムの実証実験にはなりません。ただ、常駐していただいた看護師の皆さんからは、暇な時間に医療通訳のスキルアップができたと大好評でした。

その後の海外駐在経験者としては、国際イベント、海外駐在、海外出張の際には必需品だと思いましたが、その後、ロンドン、リオデジャネイロのオリンピックなどで、スマホの通訳アプリが大活躍し、急速にその機能を進化させ続けているようです。医療現場でも、Ai が言葉の壁を解消してくれているのなら嬉しいのですが……

後記

林田先生には、先生主宰の第2回「洪庵塾に遊ぶ」シンポジウム“大阪国際化戦略のための Language Barrier Free のこころみ”で、一般にはなじみのない SIBOS の大阪開催が、これからの大阪の国際化に大きな役割を果たすであろうと私からお話させていただく機会をいただくなど、その成功に大きなご支援をいただいたことをあらためて感謝申し上げます。その後、大阪は世界有数の国際観光都市といっても誰も笑わないようになったのは、オオサカ・ナオミさんの活躍のお陰ばかりではない。

残念ながら、SIBOS はバーチャル開催を余儀なくされ、訪日客であふれていた大阪ミナミも人通りが絶えている。国際交流、国際化も死語になりそうな今、コロナ後の観光都市・国際都市大阪の新しい姿を思い浮かべることは難しいが、少子高齢化が加速し、海外からの優れた人材に日本で活躍してもらえなければならないのは疑う余地がない。どんなに AI が進化しても、言葉を使うのは人。先生には言葉の壁を超えた多文化共生社会の実現にますますのご活躍をお願いしたいと思います。

《筆者略歴》

奥野 雅生 —— 大阪府職員 OB。2008 年、世界最大規模の民間国際会議 SIBOS (サイボス) の大阪誘致に携わり、2012 年秋の大阪開催終了まで、2011 年 3 月（東北大地震直後）の大阪府定年退職を挟んで、4 年間、地元ワンストップ窓口（SIBOS2012 大阪協力推進委員会委員・事務局長）として SIBOS 大阪開催に関わった。その後、関西学院大学国際学部 ASEAN Project 担当ディレクター、OSAKA MICE アライアンス事務局長、大阪市教育サポーター（大阪市立玉出中学校内フリー・クラス運営補助）なども務めた。趣味はチェロ、草野球、ベランダでの野菜づくり。

Sibos 2012 Osaka 概要

Sibos 2012 大阪協力推進委員会 (2013年3月)

1

sibos 2012 Osaka

SWIFTの年次総会、セミナー、展示商談会、交流会

* 金融決済業務のための専門業界会議

- 国際金融関係相互の貴重な情報交換・連携機会を提供
 - 政治・行政とは一線を画す
 - * 自由な金融活動が経済を活性化 ⇒ 厳しい規制の動きを牽制
 - 金融・報道関係者に限定した厳格な入場管理 (厳重警備)

* 質・量とも民間国際コンベンションの代表格

- 35年の歴史で日本初開催

★ Meeting Industry 振興への試金石

2

SWIFT (スイフト 公式名称)

Society for Worldwide Inter bank Financial Telecommunication

- ・212ヵ国10,000以上の金融機関・企業が会員(ユーザー)
- ・ベルギーの協同組合法に基づく非営利法人 (設立1973年)

SIBOS (サイボス 公式名称)

SWIFT International Banking Operation Seminar

SWIFTの年次総会・セミナー・展示商談会・交流会

- ・欧州 (中東・アフリカ) ⇒ 北米 ⇒ アジア太平洋をローテーション
- ・第1回 プリンスル (1978年)
- ・第35回 大阪 (2012年) 日本初開催

3

SIBOSの開催地選定条件 (2008年 時点)

- ・国際金融都市であること
- ・世界主要都市と直結した国際空港に近いこと
- ・3万㎡の展示場、2800席以上の会議場、多数の会議室
- ・徒歩20分以内に3,000室以上のスイートルーム
- ・地元が歓迎してくれること etc.

【歓迎】

- * 地元SWIFTユーザー(金融機関等)の熱意
- * 警備・安全確保等への地元協力
- * 開催地の魅力あるユニーク・ベニューの提供
- * 言語の壁、法規制等による困難解消への地元協力
 - ⇒ **ワンストップ窓口**

4

SIBOS 2012 大阪協力推進委員会

SIBOS 2012 Osaka Coordination Council

2008年11月 SWIFT視察時にOCTB が**ワンストップ窓口**を約束・・・

2011年 4月 関係団体連絡会議を発展解消してSOCCを設立

- * sibos 2011 in Toronto 大阪PR(観光庁の支援！)
- * sibos開催準備支援の「ワンストップ窓口」
- * 国、関係機関の協力確保(警備、査証、通関、医療・・・)

(構成) 大阪府、大阪市長、(公財)大阪観光コンベンション協会(OCTB)
(財)大阪国際ビジネス振興センター(インテックス大阪)
SIBOS大阪マーケティング・エンゲージメント(SWIFT指名ホテル5社で構成)
SWIFT指名事業者(交通、警備、イベント、人材派遣)
Japan SWIFT User Group, SWIFT Japan
(オブザーバー 設置関係2社)

5

(公財)大阪観光コンベンション協会 Osaka-Info 掲載 Welcome Sibos 特別ページから

Osaka Subway map
How to use public transportation
Kyoto Information
Nara Information
Multilingual questionnaire
Just only for "sibos 2012 Osaka"
Gurunavi Japan Restaurant Guide
The Osaka Best Art Exhibit
OSAKA-INFO Osaka tourist guide

6



関西国際空港1F到着ロビー歓迎表示（新関西国際空港株式会社協力） 7



関西国際空港1F到着ロビー歓迎ペナール（新関西国際空港株式会社協力） 8



南海なんば駅歓迎表示(南海電気鉄道株式会社 協力) 9



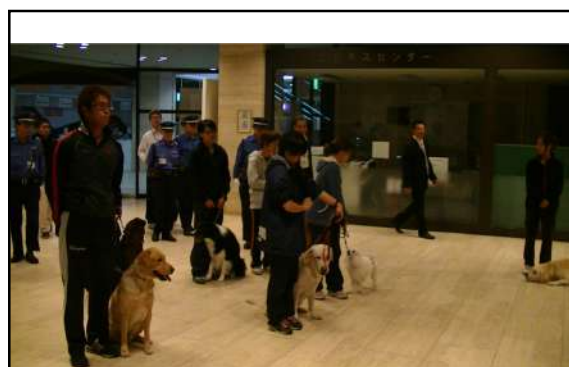
ホテルニューオータニ大阪での歓迎表示 10



御堂筋・中之島通りの街路灯(大阪市管理)へのPRペナール
(SWIFTが出版者に販売し、開催経費に充当 大阪市社会実験として実施) 11



開会を待つインテックス大阪正面玄関 12





公式ホテル(14)からシャトルバスが到着

19



金属探知機が並ぶ入口で警備員の皆さんが笑顔で手荷物チェック

20



開会総会(インテックス大阪 6号館B) *SWIFT Website Photo Gallery から転載

21



SWIFTブース

22



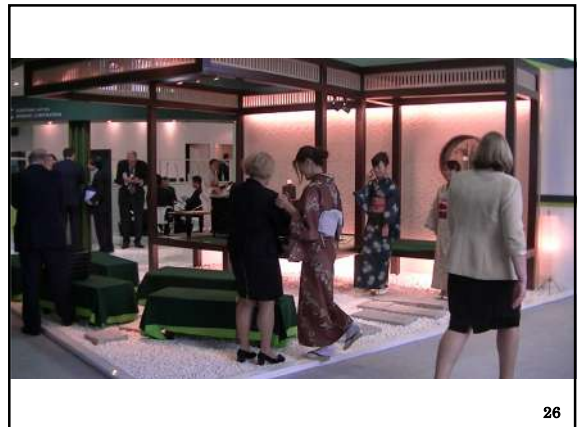
23



24



25



26



27



28

sibos 2012 Osaka

137ヵ国 参加登録 6,240人 (うち日本人1,747人)

*アジア・太平洋地域開催時 最高を更新

*1国の最高数を日本が更新

2009年 香港 5,800人

2010年 アムステルダム 9,000人

2011年 トロント 7,800人

大阪 ⇒ ドバイ ⇒ ボストン ⇒ シンガポール ⇒ 欧州？

29

sibos 2012 Osaka

- ・ 3万㎡の展示商談スペース (出展159社+？)
出展料 €14,000/24㎡
 - ・ 参加者提案会議から全体総会まで、150+？のセッション
参加登録料 € 2,950 (全日程参加)
€ 1,250 (1日参加)
SIBOSランチ € 50 (参加料とは別料金)
Farewell Party € 120 (全日程参加者は招待)
 - ・ TVスタジオを会場内に設置 世界にネット中継
 - ・ 世界の主要経済関係メディア、地元メディアを招待・報道
会議内容・話題等を「SIBOS Issues」などで翌日配布
(公式ホテルには翌早朝に配布)
- ★SWIFT, 参加企業が多数のネットワーキング・イベントを開催

30

sibos 2012 Osaka

35,000kg 航空貨物
92 コンテナ 海上輸送
25t 全体会議場(6号館B)のトラス総重量
3km 会場内設置トラス総延長
57Km 会場内敷設電気ケーブル延長
19,000㎡ 通路用カーペット(サッカー場4.5個)
7,000食 sibosランチ
“SIBOS ISSUES”掲載データから pick up
★廃棄物処理量 323t *「食博」(会期11日間 全館使用)160t
(Intex Osaka 調べ)

31

★SWIFTの開催地への投資

・視察・準備チームを4年間、毎年数次にわたって日本へ派遣
・半年前に”出展者説明会”を開催 (内外200名以上が参加)
・会場設営(展示場、会議場、IT回線設備、SWIFTブース等)
 *外国人労働者600人以上? ⇨ 査証問題
・運営 (警備、案内、接客、設営、運搬、医療、印刷、広報 etc.
 ~ 幅広い雇用、業務委託 (人材発掘、中小企業の国際化!)
・指定14ホテルに登録デスク・案内デスク配置
・全日程参加者で公式ホテル宿泊者に地下鉄エコカード4枚を提供
・シャトルバス *2空港 ⇨ 公式ホテル
 *公式ホテル ⇨ インテックス大阪
 *公式ホテル ⇨ Farewell Party(会場)
・SWIFT主催 social events : 海の時空館、迎賓館・・・
⇨ ユニーク・ベニュー確保に奔走!

32

★参加企業の開催地への投資

○ブース(個別会議～商談～スペース)設営・運営
 *設営@10万円/㎡以上?
 *専門職員を多数派遣
 *設営は世界の専門企業へ委託 ⇨ 査証問題
○会場内外での個別セミナー開催
 会場確保、関係者派遣
○個別のネットワーキングイベント開催・運営
 *綿密な事前調査・実施
 *提携先等確保、企業PRに多額を投資
⇨ ユニーク・ベニュー確保 (「和」に強いこだわり)
★Webを駆使した出展企業からの参加登録者への多様な事前PR

33

★参加登録者の消費

海外 4,500人
国内 1,741人
・交通費(航空運賃、空港使用料、新幹線、タクシーetc.)
・宿泊費(公式ホテル 約2万円/日/ルーム 5～11日)
・食 費(交際費で?)
・観 光 ~京都の英語ガイドツアーが倍増
・ショッピングは?

★設営・運輸等従事者の消費
海外600人? (開催中は観光?)
国内1200人以上?
・交通費・宿泊費・食費(ATC、お弁当・・・) etc.

34

sibos 2012 Osaka

誘致成功は ・金融機関の熱意
 ・金融オリンピックと考えたIntexの頑張り
 ・首長とOCTBワンストップ窓口の約束 etc.
...だが、Intexは「貸館」～サービスに大きな限界!

■SWIFT・SIBOSチーム:組織内“PCO”
 *契約≒ビジネス ⇨ 貸館(使用許可!)
 *「地元PCOを使わない国際会議」の日本開催は無理?
⇒ OCTBワンストップ窓口で初期対応

★sibos 2009香港～HKCECの総合ビジネス力に脱帽!

35

Meeting Businessの振興へ

SIBOS ～世界標準の“Meeting Business”?
・準備チームをサポート(頻繁な来訪:国際人材の活躍場に)
・国際標準と国内基準 (国際化への試練)
 ~査証、関税、警備、消防、建築基準、電波、食品衛生・・・
・円高騰 ⇒ 厳しい契約交渉 (使用料、施設整備etc.)
・最先端の設営、運営(超高度情報通信回線等)を体験?!

★官・民連携+広域連携で“Meeting Industry”づくり
■多様なホテル・施設、豊かな人材をつないでいく創意を!
■奥深い伝統・文化・産業がMICE振興への資産～関西の強み

36



Sibos 2012 Osaka の経済波及効果 / 国内報道実績

◆ 経済波及効果 約 122億円

◆ 税収効果 約 8億円

観光庁「MICE経済波及効果測定モデル」(展示会)により算出

入力値: ① 事業費 約50億円

(関係者ヒアリング～SWIFT・出展企業の投資内容から推計)

② 参加者数 海外 4,500人 / 国内 1,700人

③ 開催期間 4日間

*ただし、設営・撤去期間、設営関係外国人労働(約600人)等のSibos固有の数値は、上記推計には反映されていない。

◆ 国内関連報道 新聞等掲載記事 約160件

TV報道 11件